

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600468
法人名	医療法人 大志会
事業所名	グループホームうちこ園
所在地	愛媛県喜多郡内子町内子3683番地
自己評価作成日	平成21年9月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1日に1回は声を挙げて心から笑ってもらえるような介護を目指しています。日勤は4.5人体制で入居者の個別介護にゆとりを持ってきめ細かい支援をしています。四季を満喫できる閑静な環境を生かした畑での野菜作りを通して、自宅で生活していたときと同じように土に親しみ、旬の野菜をおいしく味わうことが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 運営推進会議に利用者、ご家族が参加しやすいよう、会議の後に芝生でお弁当を皆で食べる「お弁当をひろげる会」をされたり「合同運動会」等の行事に合わせて開催されたこともある。運営推進会議のメンバーの方は、利用者と交流する機会になり、又、ご家族にも会議について知ってもらい、参加者からは「よかった」という感想も多かったようである。
- 「介護は利用者を中心に」と、管理者は常々職員に話しておられ、いろいろトライしてみて、利用者にとって一番良い方法を検討するようにされている。台所のカウンターを取り外して利用者が自由に入れるようにする等、法人に提案し実現されていた。
- 管理者は、利用者のご自宅に訪問してお話する機会も作っておられ、ご家族にも具体的に「食事について」等、事業所のサービスについて意見を出していただけるよう働きかけておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム うちこ園

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

片岡 知恵美

評価完了日

平成 21 年 9 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で作り上げた理念と理念に対する目標を更に具体的に掲げて、日々の介護に活かせるように事業所内に掲示して意識付けをし、また職員会議やミーティング等で理念に基づいた介護実践の確認や意識共有により介護サービスの質向上につながるよう努めている。日常的に本人の気持ちを尊重するためにどうかミーティング等でも意見が活発に出るようになり確認しあうようにしている。 (外部評価) 職員全員で話し合っ作られた理念は「基本的人権を守る・利用者の立場に立つ・安心して暮らせる場の提供」と掲げておられ、さらに3ヶ条の目標とともに掲示されていた。目標の一つには「地域の一員として協力し、支えあえる地域作りに励みます。」と掲げて取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な買物や散歩、思案堂の参拝などにて地域の方と挨拶を交わしたり、近くの畑で取れた野菜や果物を差し入れして頂く事もある。地域の生きがいサロンやお祭り等に参加したり地区の小中高学生や保育園生のボランティア活動による交流がある。また自治会の思案堂建設において協力し合い落成祝賀会に参加させて頂き地域の方々との交流が図れた。2ヶ月に1回ずつ開催している運営推進会議の効果が大きいと思える (外部評価) 周囲に住宅がなく日常的な付き合いは少ないが、毎日の買い物時には挨拶を交わしたり、月に1回の地域の生きがいサロンに参加されたり、祭りの神輿に来てもらったりされている。小学生・中学生・保育園児の訪問があり、利用者の楽しみとなっている。	立地条件もあり、地域の方達との日常的な行き来にはむづかしい面もあり、地域とのおつきあいについては、事業所自身の課題の一つにもなっている。事業所の理念や目標の実現に向けて、地域とのおつきあいを深め、利用者一人ひとりの生活を地域に広げていけるような取り組みを工夫し続けていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 「認知症になっても地域で安心して暮らす・支え合う町作り、ネットワーク作り」のテーマで認知症講演会を開催し、同時にグループホームでの生活状況を入居者のプライバシーに十分配慮しながらスライドや写真にて公開し認知症に対する正しい知識と理解を図ると共に、地域の中高校生の実習の受け入れも積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営理念や自己評価及びサービス評価の説明により、改善に向けた具体策について等率直な意見を引き出せるように工夫している。交流型の推進会議を開催することで、要望や意見が少しずつ集まりより良い活動に繋げるようになってきている。運営推進会議・町内の連絡会・家族会との横の繋がりを助めて一体化した総合的な連携を深めていくように行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に利用者、ご家族が参加しやすいよう、会議の後に芝生でお弁当を皆で食べる「お弁当をひろげる会」をされたり「合同運動会」等の行事に合わせて開催されたこともある。運営推進会議のメンバーの方は、利用者と交流する機会になり、又、ご家族にも会議について知ってもらい、参加者からは「よかった」という感想も多かったようである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月開催している町内の連絡会に於いても市町村との意見交換や情報交換を行っている。また、運営推進会議・町内連絡会・家族会の行事等に参加してもらい意見交換をしたり、介護保険改正における説明会に参加して相互間の連携を図ると共に、入居者の課題等の解決に対する意見交換をして情報の共有や協働関係を維持している。	
			(外部評価) 毎月、行われている町内のグループホーム連絡会で、町の担当者から集団指導があったり、運営推進会議時に、介護報酬改正やスプリンクラー設置基準等について説明をいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の人権を守る事を介護の基本と考えて理念にも盛りこみ拘束はどんな事があっても行わない事を全職員で認識し、自覚しない拘束がされていないか常に相互間の点検をしている。また介護保険指定基準における禁止対象の具体的な行為について身近な場所に掲示して確認し合い、更に法人全体でも拘束についての研修会を重ねて実施している。	
			(外部評価) 基本的に身体拘束はしないことを申し合わせており、転倒の危険性がある場合には、職員は、利用者の動きを見て、不安な様子の時にはそばにるように心がけておられる。「利用者の動きを把握する」「動きが見える位置に職員がいるようにする」こと等から、利用者が外に出た場合でも誰かが一緒にいて行けるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について日常的なミーティングや職員会議を利用してなど全職員で理解し合える機会を持っている。また運営推進会議や家族会及び町内連絡会等に於いても議題にして周知や相互理解の機会を持ち、広く入居者や家族更に地域の意識を高め虐待を防止する姿勢を整えている。	
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度や日常生活自立支援事業についての勉強会を法人内で実施して職員の理解を深めるようにしている。権利擁護制度利用の該当者は現在いないが、今後必要性が生じた場合には入居者が活用できるように各関係機関と連携し家族や本人へのサービス提供につなげるように努めていく。	
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書や重要事項説明書及び医療連携体制や見取りに於いても十分説明をし、納得を得るように努めている。契約の改訂に於いては改訂根拠となる資料を提示して納得得るまで話し合いを持ち同意を得るなど、また契約解除に於いても本人や家族の意向を十分に考慮しながら今後の対応に於いても検討するなど個別の対応をしている。	
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者本人の思いや意向を表せる機会や場面を作り、自ら選んだり決定できるような働きかけをしている。日々の言動や会話の中から要望を見出し職員間で検討し共有しながら働きかけるようにしている。アンケートの実施や家族会での座談会などを開催して意見や要望を聞き取り、職員間でも共有検討して対応していくように努めている。 (外部評価) 家族会の開催時には、ご家族だけで話し合える機会を作り、自由に意見交換ができるようにされており「すっきりした、又、話したい」との感想もあったようである。管理者は、利用者のご自宅に訪問してお話する機会も作っておられ、具体的に「食事について」等、事業所のサービスについて意見を出していただけるよう働きかけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のミーティング及び毎月実施している職員会議等において「職員の要望意見及び職場の改善策」という項目について一人ひとりが意見を述べる機械を作ると共に、あらゆる機会を通して運営上の懸案や決定事項について職員間で情報を共有し意見交換に努めている。また個人面談等や職員親睦会の（陽だまり会）交流会を通して考えや意見を聞きだすように努めている。 (外部評価) 「介護は利用者を中心に」と、管理者は常々職員に話しておられ、いろいろトライしてみて、利用者にとって一番良い方法を検討するようにされている。台所のカウンターを取り外して利用者が自由に入れるようにする等、法人に提案し実現されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の人事考課を機械にして個人面接を実施したり法人内の勉強会、全体会、親睦会等の行事において理事者や代表者との意見交換が出来る体制になっている。また就業規則において職務や条件は定められ納得できる体制である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 愛媛県グループホーム協議会による研修会及び研修センター等各機関の研修会に参加して職員全員が理解し共有できるようにしている。また法人内での研修会や町内でのグループホーム連絡会における研修会を主催するなどして全体的な職員の質向上に繋がるように努めている。OJT実施計画を作成し全職員で現状が共有できる取り組みをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム協議会に入会しグループホーム間の意見交換や交流を図ると共に、内子町内のグループホーム連絡会を自主的に作り意見交換や情報交換、合同運動会、勉強会愛媛県研修センターの協力を得て出前講座を活用し合同研修会を開催し、地域密着型としてのグループホームの役割を図っている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査時は自宅訪問により本人の生活状況及び生活環境、馴染みの物や習慣などについても細かく把握するように努めている。また施設にも来て視察をして頂き、幾度かお会いして困っていることや生活への考えなどを聞きながら、本人の要望や現状を把握することで少しずつ関係を築いていくように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の状況を把握し本人の現状についての情報を共有し共感しながら、また家族間での思いや考えの相違、特徴などについても把握するようにしている。更に今後の支援において家族との思いや考えが少しずつ重なり合い本人を共に支えていくという体制作りをめざしている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時本人及び家族の要望やおかれている現状について、まず何が必要か更にどんなサービスがあるのか等について説明しサービスの選択ができる体制をとると同時に、必要時は担当のケアマネジャー、役場介護保険課や支援センター等の協力を得ながら共に解決に向けて連携を図っている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりのできることを見極めながら得意な生活行為をしてもらって感謝し合ったり、感動し合ったり共に喜び合えるような場面作り、声かけやセッティングの工夫をしている。また介護する人される人等の意識を持たないような心使いにも努めている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時及びには日常的な本人の状況について情報を共有し共感しあえる関係作りに努めている。また家族会の交流会を通して本人を共に支援する物同士の関係作りを深め、更に家族との絆が深まるような係わり合いが築けるように努めている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 入所以前からの行きつけの美容院を継続して利用出来るように支援している。また馴染みの店や神社、お寺等に参拝したり、お墓参りに出かけたりして地域社会との継続的な関係の支援に努めている。地域住民のご尽力にて新たに改築された「思案堂」の参拝など日常的に利用して活動のきっかけ作りにもなっている。 (外部評価) 併設の通所リハビリに通って来られる友人が遊びに来てくれたり、ご家族が勤めておられる道の駅に買物に行った際に会われている。調査訪問時、面会に来られた利用者の知人の方をご本人が居室に案内し、お茶を飲みながらお話をされていた。職員は、行きつけの美容院の利用や、お寺にお参りに行きたいと言われる方と一緒に出かけられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者の関係性の情報を職員間で共有し気の合ったもの同士での交流の機会を持ったりまた感情の変化による入居者間の関係性を注意深く見守りながら、みんなで助け合ったり喜び合ったりして共感することで円滑な関係が保てるように配慮している。	
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族が継続して遊びに来ていただき入居者との話し相手になった頂いたり、一緒に食事をしたりまた運動会や研修会、うちこ園祭りなどの行事等にはお友達を連れて参加していただくなどボランティアとしての活動にも繋がっている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使用したアセスメントを行い一人ひとりの思いや意向について情報を収集し共有できるように努めている。また意向や希望を固定化する事無く、あらゆる機会を通して家族や親族の方から情報を集めたり、日常の係わりの中での言葉や表情による真意を推し量りながら、本人の視点を中心に検討するように努めている。	
			(外部評価) センター方式のアセスメントを用いて、職員が利用者と日々がかわる中で得た情報や気付いたことを書き込み、使いやすく工夫されている。又、介護日誌も職員が気付いたことを書き込む欄を設けておられたり、利用者の日頃の言動からも思いを把握できるよう取り組まれている。事業所では車椅子で移動されている方が外泊し、自宅の庭を歩いておられるのを見て、管理者は「自宅は元気が出るのだなぁ」と感じられたようである。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居に至るまでに自宅にて本人の暮らしぶりや自宅の環境間取り習慣などについての理解を深め、一人ひとりの生活の歴史やサービスを利用するに至る経過に於いても把握するように努めている。更に入居後も本人や家族から生活ぶりを聞きだし、センター方式を活用した本人の総合的な理解把握に努めている。	
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりの生活状況、生活リズムに寄り添ってその日の気分や表情、出来ること出来ないことの日内変動、日差変動を見極めながら全職員で共有しその時々に応じた対応を心がけ、日々のアセスメントから介護計画へとフィールドバックしながら総合的な把握による柔軟な対応に心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人及び家族の意向や個性を大切にし、必要な支援を盛り込むようにしている。また職員や家族及び主治医、関係者からの気付きや意見を広く収集して検討しながら介護計画を作成すると共に、日々の介護の組み立てによる総合的客観的に連動させる介護計画を目指して努力している。	
			(外部評価) カンファレンスは、利用者のご自宅や事業所でご家族も交えて行われおり、そこでの意見を踏まえて介護計画を立てておられる。さらに計画に沿った詳しいケアの内容を示す「日課表」を追加し、全ての職員が同じケアを提供できるよう工夫されている。計画がケアに役立ち、ケアの結果が評価・計画に活かされるような仕組みを作っておられ、今後、活用に努力していかれるところであった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人ひとりの記録ファイルを使用してバイタルサイン、食事水分、排泄、受診等の状況についての記録をすると共にS A O P式の介護記録により出来る事出来ない事の変動や工夫したこと今後の課題などを日々記録し職員間で共有し合い個別の記録と介護計画との総合的な連動を図りフィールドバックしながらサービスの質向上に繋がるように取り組んでいる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 重度化していく入居者や家族の要望に応じて緊密な医療連携の体制をとり、夜間の緊急時の対応を考慮したり、また法人内施設を活用した機能練習をして自立支援を促すように努めたり、通院や送迎等の柔軟な対応により家族状況や要望に応えて行くように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で地区の自治会や民生委員さんの提案やお誘いにより、生きがいサロンへの定期的な参加や、地域で企画された阿波踊りを見物するなど地域で交流する機会が増えてきている。図書館や公民館にも出かけて行き地域の催し物を見物するなど文化的な交流も実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居者各個人のかかりつけの主治医ごとに継続的な受診をし て、必要時は受診の送迎や主治医へ生活状況について等の報 告及び説明をして異常の早期発見に努めている。また入居者 の状況に応じ急変時には夜間でも訪問診療を受けられるよう に日頃から協力体制の構築に努め、本人の病状や今後の方針 等についても家族と供に情報を共有しながら、総合的な医療 連携体制を図っている。	
			(外部評価) 利用者、ご家族の希望するかかりつけ医の診療を受けられる ように支援されている。松山の病院へ通院する方には、ご家 族が付き添っておられ、町内の病院受診には、職員が同行さ れている。受診の結果は双方で報告し合っている。多数の利 用者がかかっている主治医とは、いつでも連絡でき、夜間でも 対応していただけるようになっている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 管理者は看護師であるので日常的な入居者の一般状態の観察 を細かく実施して健康管理を行い、主治医に報告や相談を日 常的に行いながら医療面や栄養面での相談や助言が気軽に受 けられる体制が整っている。また日常的な一般状態について 詳細に記録し全職員で共有している。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に本人の情報を文書で提供し、入院治療計画により情 報提供を医療機関から受け取ると共に、現在の病状について 今後の予後について退院後の過ごし方について等家族と供に主 治医を交えて検討する機会を持てるように積極的に働きかけ ている。また入院中は本人や家族病院の看護師等と情報交換 しながら連携を図るよう努めている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制、看取り介護に関する指針を文書化して共有し 重度化した場合の対応について本人家族主治医を交えて同意 書を作成し方針の統一を図っている。また本人や家族の気持 ちの変化を察しながら状態の変化に応じて検討を重ねあい関 係者が一同に解して対応方針の共有を常に図って行けるよう 努めている。	
			(外部評価) ご本人ご家族には看取りの指針を説明し同意を得て、状態変 化時に今後のことについて具体的に話し合うようにされてい る。ご本人には終末期のあり方については聞いておられない が、ご家族からは意向をお聞きしている。看取り支援の経験 もあり、「職員全員が安心して変化に対応できるように」マ ニュアルも作成されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署にて実施される上級救命講習会に参加して救命技能認定を受けるようにしている。また緊急時の対応マニュアルについて、更に法人内の協力体制にて応急手当や連絡方法、AEDの使用における留意事項等周知を図り、実際の場合で行かせるように職員会議等においても折に触れて話し合ったりしている。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 予期できない災害に備えるため2回は消防署の協力により夜間を想定したり、グループホームを主体にしたりとあらゆる想定の設定により、防火訓練を主体にした避難誘導、避難経路の確認及び消火器の使用方法等についての訓練を行っている。また法人内には災害に備えた備品の（食料品や水等）の設備が整っている。更に地震に耐えうる強度の耐震地盤となっているため、運営推進会議においても地域の避難場所への提供も呼びかけている。 (外部評価) 年2回、併設の老健と合同訓練を行っておられ、ホームからの出火、夜間時を想定して訓練を行っておられる。近日中にスプリンクラーを設置する予定となっている。又、事業所あたりは地震に強い地盤ということもあり、地域の避難場所にもなっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の基本的な人権を守り利用者の立場に立つこと等の理念の基に全職員で入居者の尊厳を保ち意向を確認しながら介護を勧めることを原則に、入居者は目上の方、人生の先輩であることから、敬語で接する事や傍でゆっくり意向を確認しながら介護の誘導をする、プライバシーの確保や個人情報を他者に安易に漏らさない事など採用時の研修、職員会議やミーティング等で話し合い全職員が認識できるようにしている。 (外部評価) 管理者は、「外から見える立場ではなく、その人の立場を優先してケアをする」ということを基本と考えられている。トイレ誘導時にも「自分がされて嫌な声かけの仕方はしない」ように注意されている。居室は全部屋、車椅子で利用できる洗面台が設置されており、個々が歯磨きや洗面時に使用されている。	
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で入居者一人ひとりの嗜好や関心、希望を普段から見極めながら本人が自ら選ぶことの出来る場面作りに心がけている。また個人の好みを決め付けず気持ちの変化と好みの変動についても理解し、表情や些細な言動からでも気持ちを読み取るまた職員間でも情報を共有しあいながら発見及び共感の楽しさを一緒に味わえるよう場面作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常的な買物に同行する人、園内の散歩をする人、ウサギに餌をやる人、思案堂へお参りする人、受診する人等々その時々での過ごし方を自ら選べるような働きかけをすると同時に体調に合わせて食後にしばらく休憩を誘導したり一人ひとりの生活リズムやその日の望みを押し量りながら、自発性を引き出して柔軟な対応を支援するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) いきつけの美容院で毛染めやパーマが出来るように美容院と連携を図り送迎などの支援をしている。また個人の好みに合わせてその日の衣類を選んでもらうが、自分で選べないときは声かけや誘導にて一緒に選ぶようにしている。またズボンの上げ直しや衣類のスレ直しなどの整容を細かく注意してさりげなく直すようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の買物から食材の下ごしらえや配膳、後片付けなどの一連の作業を入居者一人ひとりの力量に合わせて一緒に感動しながら行う事で張り合いや自己認識または楽しみに繋がるように工夫している。新鮮な野菜や食材を基に四季を感じたり昔の話を引き出すような意識的な声かけも実施している。また時にはお弁当を作って庭で食べたり、外食したりして気分を変えて楽しむようにしている。 (外部評価) 利用者と職員で食材の買い物から下拵えを一緒にされており、畑の野菜はその日に収穫し、利用者が覚えていた間に調理するように心がけておられる。台所のカウンターを取り外し、利用者が自由に配膳や下膳できるようになった。食事介助では、飲み込みがむづかしい場合、とろみを付けたり、お茶とご飯を交互に口に運ぶ習慣をそのまま続けられるよう支援されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量は毎日記録し全職員で共有すると共に、必要時は主治医にも報告相談をしている。また法人内の管理栄養士とも連携を図り日常的にアドバイスを受けながら栄養バランスに注意している。また一人ひとりの好きな物や嫌いな物を観察して理解し、食生活の充実に努めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後自分で出来る人には歯磨きの声かけ、見守り、出来ない人には歯磨きの手伝いをしそれぞれに必要な介助を実施している。義歯は就寝前に洗浄消毒して口腔内の清潔を保っている。またスポンジブラシなどを使い歯茎のブラッシングにて歯周炎や口臭を防ぐようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の生活リズム、排泄パターンを把握し尿意を感じた時にトイレに行けるように一人ひとりのサインや意思表示を見逃さないようにさりげなく声かけして誘導するようにしている。直接的な排泄介助を拒否する場合は、さりげなく観察しながらタイミングを見計らって介助をさせてもらうこともある。夜間は尿パットを使用している人でも日中は極力パットを外しトイレで気持ちよく排泄できるように努めている。	
			(外部評価) トイレ誘導のタイミングは利用者一人ひとり違い、気を付けて誘導されている。紙パンツを使用される方も、昼間はできるだけトイレで排泄できるよう促すようにされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い野菜やイモ類果物及び乳製品をふんだんにメニューに取り入れたり、散歩や買物体操などにより適度の運動を促し、自然に排便が出来るように工夫している。また日常的な排便の管理により便秘気味の人にはセンナ茶や水分を補給するなどして無理なく排泄が出来るように注意している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望にあわせて日中でも寝る前でもいつでも入浴が気持ちよく出来る様に浴室の準備をして対応している。入浴への抵抗が強い場合は、脱衣場の気温の管理を細かくチェックして暖かくするなど脱衣への抵抗を和らげたり、庭を散歩して気分転換後に入浴を誘導してみるなど本人の気分を観察しながら抵抗感を少しでもほぐすように係わりながら工夫して、「やっぱりお風呂はええわい」と感じてもらえるように努めている。	
			(外部評価) 介護度が重度の方も安楽にシャワー浴ができる設備がある。又、浴室と脱衣場に呼び出しブザーが付いており、利用者だけでなく職員もいつでも応援を呼べるようになっている。入浴を嫌がられる方がおられるようだが、一人ひとりに、お誘いする際のコツがあり、興味のあることに目を向けた後に誘う等、工夫して取り組まれている。例えば花の好きな方は「花がきれいで見に行きませんか」と連れ出し、帰ってきて「汗をかいいたので着替えましょう」とお誘いすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの表情や身体状況等により食後しばらく自室で休憩できるように介助したり、足の浮腫が強い場合は日中の足の位置を少し上げるなど適宜状態や希望に応じた対応をしている。夜間の頻尿により不眠気味な場合等生活リズムシートの記録にて主治医に報告して相談し対策をしている。また日中は生活行為や散歩外出等にて活動を促し安眠が得られるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される説明書を全職員が認識し、下剤などについては排便状況を観察して主治医に報告し調整している。一人ひとりの状況により錠剤や粉薬、ゼリーなど主治医と検討して、服薬時は1回分ずつ手渡しして服薬の確認をするなど安全に服薬できるように支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で一人ひとりの潜在能力を引き出しながら役割や出番を自然な形で作り活躍してもらえるようにまた、出来ない場合は見ているだけでも参加した気持ちになり楽しめるように工夫しながら、食事作り、梅干や切干作り、干し柿、野菜作り、畑仕事等々をみんなで楽しんでいる。買物や外出外食サロンにも出かけ楽しみながら気分転換している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物や少し遠くのデパートに足を延ばしたり、その時の状況、一人ひとりの希望に合わせて気軽に出かけている。また四季折々の花やお祭りなどの行事を見物に出かけ、季節を肌で感じて気分転換をし心身の活性化を図るようにしている。猛暑の中避暑地めぐりを本人や家族と話し合い賛同する家族の協力を得て実施することが出来た。しばらくは思い出として記憶に残り喜んでもらったので今後も機会を増やしていきたい。 (外部評価) 自然に囲まれた環境の中にある事業所で、散歩は庭から出て、思案堂まで行かれる方もある。畑の草引きをされる方は、テラスから畑を見るだけでも生き生きされるようだ。買物やサロン等、地域に出かける取り組みは、介護計画に盛り込み支援されている。ご自宅に戻ったり、墓参りや寺参りに行かれる方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 元気な頃から使っていたバッグや財布を引き続き持ってきてもらい少額を持っている人もある。買物時は預かっているお金を手渡ししてレジで支払いをしてもらうこともある。また店の陳列台をゆっくりと見物しながら金額を確認し合い、昔の値段と照合して経済状況を知ること、社会的な刺激を受けるように働きかけることもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力量に合わせて年賀状を作成し家族や親族に送る事で、出来る事を共有する機会ともなっている。電話はコードレスの受話器を利用して、自室でゆっくりと会話をしてもらえるようにしている。また本人の要望に応じていつでも電話が使用できるように、時には職員からも声をかけて自由に通信が出来る体制を整えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室と廊下の間に暖簾で仕切った空間に椅子を設置して休憩したり隣の人と談話したり出来るようになっている。居間と食堂台所はワンフロアで仕切りがなく気軽に台所に入り調理や盛り付けに参加し易いようになっている。冬場にはコタツや火鉢にて和めるように工夫している。廊下や居間には天窓から自然の柔らかな採光と排煙窓の開閉を適宜行うことで自然な風の流れで、冷暖房による空気の淀み対策になっている。各居室には温度計を置いて数値を確認しながら各居室の環境整備を行って快適な暮らしの提供に工夫している。	
			(外部評価) 玄関には、全職員の顔写真を貼っておられたり、ゆずやカラス瓜が飾られていた。居間は、天窓からやわらかな光が注ぎ、豊のスペースにはコタツと火鉢が置かれている。本箱には、利用者に人気の天皇ご一家の写真集もあった。2ヶ所のテラスからは畑や東屋が見え、テラスに2層式洗濯機があり、ご自分で使用される方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダやテラスに椅子を置いて畑の野菜や景色を眺めたり、ウサギに餌をやって中庭の景観を眺めたり、また廊下や居間のあちこちにちょっと腰を下ろしゆったりとくつろげるように居心地のよい空間作りに工夫している。また玄関横の椅子には面会者のお見送り時や外出時などに座ってくつろげるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で生活していた時と同じように継続した生活が出来るようにとの意向を伝えて家族の協力を得て使い慣れたなじみの生活用品（家具や座布団、鏡や時計、バッグ等）を持ってきてもらい安心して過ごせるように支援している。また暖簾からの居室空間は個人のプライバシーゾーンとし無断で出入りしないなど信頼関係の源として配慮している。	
			(外部評価) ご自分のお部屋が分かりやすいように、ご自分で作った手まりが目印に掛けてあった。ご家族の写真を飾ったり、アルバムや、読書をされる机や椅子、タンス等が持ち込まれてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の名札やトイレなどの目印は入居者の目線に合わせて表示したり、網戸中央にサンを入れて見えやすくするなどの工夫をしている。更に入居者の状況に合わせて窓の開閉を考慮するなど、生活の中で混乱しやすい環境について細かく観察し本人の状態を把握しながら不安や混乱失敗を最小限に出来るように工夫している。	